

森林

の

ささやき

会員ジャーナル 第6号



NPO法人  
北海道に森を創る会

2012年1月 発行

特集

国際森林年と北海道に森を創る会の取組み



会場がめ尽くされた大盛会の「道民による道民のための森林フォーラム&コンサート」





# 2011 国際森林年記念 道民による道民のための森林フォーラム&コンサートの報告

2011年国際年にあたり、当会のメインイベントとして、当会が企画と実行の中心となった「道民による道民のための森林フォーラム&コンサート」「森の知恵展」の様子を報告いたします。

主催:19団体終結の実行委員会 協賛:6団体 後援:4団体 森の知恵展:17団体出席  
スローガン:①道民みんなで森づくり ②北海道の山林を外資から守ろう

\*紙面の制約により、ごく一部分の掲載や言い回しの変更、舌足らず等をご容赦ください。

## ◇ 森林フォーラム&コンサートの流れ(概要は下記をご覧ください)

幕開けは、神山さんのピアノ弾き語りの熱演から始まった。堀達也実行委員長の挨拶、門田さとみさんの伴奏で斉藤かすみさんの澄んだ音色のオカリナ演奏、北海道神宮の井澤権氏宮司の基調講演、高橋はるみ北海道知事の主催者と来賓の挨拶に続き、基調講演の井澤正裕さん、住友和弘さん、石森秀三さん、沼田和之さん秀三さん、沼田和之さん、オカリナ演奏の斉藤さんの5名によるパネルディスカッションが行なわれた。そして、全体進行役のHBCアナウンサー渡辺陽子さんの軽快な司会で、終始大盛り上りのイベントとなった。なお、森の同時開催の知恵展も好評だった。

## ◇ 目的

日本人は、自然摂理が思想の底流をなしているといわれている。地球温暖化防止のための低炭素社会の構築が大きな課題になっており、国際森林年を契機に、森づくりNPOや環境保全ボランティアなどが手を携えて、北海道らしい豊かな森林を創り、育て、郷土を愛する心を醸成し、良好な環境を次の世代へ引き継ぐために、道民自らの行動を考える目的で「道民の道民のための森林フォーラム&コンサート」と「森の知恵展」を開催した。

## ◇ 概要(プログラム)

### ◎ 森よ還れ(ピアノ弾き語り)

歌唱 神山恵子さん  
曲 翼をください  
カムバックフォレスト  
イメージ



### <プロフィール>

ジャズ・シャンソンやポップスと幅広いジャンルで、札幌市時計台でライブ/コンサート、愛は地球を救う、日米野球での国歌斉唱などの経歴を持つ。ミュージックキャリア「ソルト・ハリ」経営のかたわらコンサートなどに活躍中。

なお、紙面の関係により、ごく一部分の掲載や事言葉遣いの変更、舌足らず等をご容赦ください。

### ◎ 主催者挨拶(一部記載): 実行委員長 公益法人 北海道に森と緑の会 堀達也理事長

多くの皆様にご参加いただき、開催できたことを誠に嬉しく思っている。北海道の森林は、戦時中の伐採で荒廃したが、多くの山村地区の先達の努力により山の復活なされた。その後の洞爺丸台風など数度の甚大な被害に、道民一丸取と組んでなっている。北海道の豊かな森林づくりへの思いから多くの環境保全ボランティア団体・NPOが結集し、自ら行動を考えるフォーラムを企画したところ、北海道銀行、北海道放送ほか、数多くの協力を賜った。皆様と共に、郷土を愛する心の醸成と森の恵みを考える一日にしたい。



### ◎ オカリナコンサート

オカリナ 斉藤かすみさん  
電子ピアノ 門田さとみさん  
曲 森に還る 森のダンス  
Ocarina Winnd Family



### <斉藤かすみさんプロフィール>

小さい頃より音楽に親しみ宗次郎のオカリナに魅了され教室を開く。角田さとみさんと道内外でコンサート。岩見沢市志文町に在住。



### ◎ 来賓挨拶: 高橋はるみ北海道知事

(抜粋)2011年国際森林年を記念した「道民による道民のための森林フォーラム&コンサート」が盛大に行なわれることを心からお慶び申し上げます。

森林王国北海道の国際森林年を祝う全道規模の会は初めてとお伺いしている。ご尽力された堀委員長や多くの関係者の皆様に関心から感謝申し上げます。前回の昭和60年国際森林年から約四半世紀の間に、森林関係者の努力により、森林資源が30%以上増えており、道内財使用比率も6割と全国平均を大きく上回っている。今年の国際森林年、全道で大小300あまりのイベントや事業が行なわれる。帯広で開催予定の全道植樹祭など、森を守り育てる素晴らしい年にしたい。本日の盛会本当におめでとうございます。



## ＜国際森林年とは(世界の動き)＞

- ◇森林を未来に残すために、「森林の保護」「森林資源の利用」「森林の開発」など、人々と森林の関わり方について、世界の認識を高めることを目的に、2006年の国連総会決議で定められ、「国際森林年・2011」を宣言した。
- ◇第9回国連森林フォーラム(国連本部、2011年1月～2月開催)で、国際森林年を公式に□

▽第90  
回国連総会



## ＜日本の主な動き＞



2011・国際森林年

国際森林年の節目に、現在取り組んでいる森林林業再生や美しい森林づくり推進の国民的運動、発展途上国の森林保全等に対する啓蒙などを目的に以下のさまざまな活動や施策、事業が推進、実施された。

- ◇左記の「2011 国際森林年日本語ロゴマーク」を発表(8月12日)  
森林からの恩恵を象徴として、人間のまわりに家・動物・りんご・葉・川・雲と雨を配置
- ◇第1回国際森林年委員会開催(12月16日)  
国際森林年のテーマを「森を歩く」に決定(森林の理解を深める入口)
- ◇第2回、第3回国際森林年国内委員会開催(4月14日、8月13日)
- ◇民間企業等への説明会(12月17日、3月2日)  
林野庁長官より、背景と方針説明やアンケートを配布し、将来マッチングを支援
- ◇2010年の国際生物多様性年(生物の多様性の保全などを目的とした国連宣言)と国際森林年とのブリッジングセレモニー(12月18日 金沢市)
- ◇国土緑化・国際森林年記念切手発売(5月20日)
- ◇全国植樹祭開催(和歌山県 5月22日)
- ◇多数の関連セミナー、関連フォーラム、関連シンポジウムが開催された
- ◇官民ともに、多数の関連イベントが全国各所で開催
- ◇多数のマスコミで報道や特集

## ＜北海道の主な動き＞

- ◇第25回「森林(もり)の市」(6月4日 札幌市)□
- ◇2011国際森林年記念植樹～オホーツクの「森を歩く」～(5月25日 北見市)
- ◇第62回北海道植樹祭(5月29日 帯広市「帯広の森」)□
- ◇2011国際森林年記念シンポジウム□  
～森を歩いて感じよう！森林から始まる北海道の未来～(9月11日 札幌市)□
- ◇国際森林年記念 森林のつどい2011育樹祭(10月14日 十勝西部森林)□
- ◇多数の関連セミナー、関連フォーラム、関連シンポジウム
- ◇官民ともに、多数の関連イベントが全道各所で開催
- ◇多数のマスコミで特集



## 北海道に森を創る会の取組み

- ◇「道民の道民のための森林フォーラム&コンサート」開催⇒詳細は次ページを参照  
2月26日かでの2・7ホール(札幌)で開催 観客:508人 スタッフ:70人  
当会は、発起人会や実行委員会の中心的推進役として取組み、成功裏に終えた。
- ◇未来の森 春の行事(5月8日 函館市 地元幼稚園や関連団体の143名参加)
- ◇新山川草木を育てる集い(5月15日 当別町青山の道民の森 当会5名参加)
- ◇茨木の森春の行事(5月21日 月形町 80人参加)
- ◇北海道植樹祭in帯広に参加(5月29日 帯広市 当会8名参加)
- ◇第58回全国植樹祭跡地保全事業 6月20日 苫小牧 当会3名参加)
- ◇日本さくらの会総会出席(理事長他 5名参加)
- ◇国際森林年 記念植樹(9月25日 道民の森)  
当別当会観光協会主催で98名参加。アカエゾマツを2011本植樹
- ◇森づくりネットワークの集い(9月25日 道庁前庭 森とみどりの会主催、当会6名参加)



NPO法人  
北海道に森を創る会



◎基調講演『神々のやどる森』(一部記載) 講師：北海道神宮 井澤正裕権宮司

1 日本人と自然

日本人は自然の様々な現象のなかに、霊性・靈感を感じとり、その「おかげ」を祈り、感謝を捧げきた。生成発展や万物を生む自然の姿を尊び、邪(よこしま)の心、穢(きたない)い心を嫌から、清らかさい、「正直」・「清浄」を重んじる生活心情を培い、自然との関わりの中かでその民族性を高め、道徳律を形成してきた。



＜プロフィール＞

国学院大学大学院修了後神社本庁奉職。総務部長、総合研究所研究部長など歴任。同時に国学院大学講師も兼任。平成22年7月より現職。

2 日本人の神

日本人は、神を唯一絶対神で超越した存在と考えずに、実体としてではなく、むしろ霊性(神威・神徳)として捉え、深く茂った木々や秀麗な山々など、自然の中に宿るものと考えてきた。

3 神社の信仰

神社の多くの祭りで古来より大切とされてきたのが、生命が芽生え胎動するときの祈年祭(2月)と秋の稔りと生命の再生を祈る新嘗祭(11月23日)で、四季の織りなした生命の循環に、祈りと感謝を捧げてきた。かかるなか次世代への永遠性と魂の不滅を祖霊の祭りで得られると考え、生命を瑞々しいものにしてきた。

4 森へのまなざし

経済合理主義的考えから日本人本来の感性に立ち返り、忘れかけた「おかげ」を祈り、感謝の気持ちを取り戻すことで森を営み、自然との共存を可能にする。北海道開拓や先人の深遠なる気持ちを、時代を超えて守り伝えてきた「神々のやどる森」の佇まいのなかに、記憶として残していかなければならない。

◎パネルディスカッション



森との関わりや思いを熱く語るパネラーの皆様

＜パネラー＞

- \* 北海道神宮権宮司 井澤正裕さん
- \* 旭川医科大学特講師 住友和弘さん
- \* 北大観光高等研究センター長 石森秀三さん
- \* 北海道銀行広報CS室長 沼田和之さん
- \* オカリナ演奏 斉藤かすみさん
- \* HBCアナウンサー(司会) 渡辺陽子さん

\* 紙面の制約で、パネラーの皆様が話された内容のごく一部分を編集して紹介します \*

<井澤正裕さん>	神社は、神様に奉仕し祀り、皆様の願意お取り次ぎ、宮守として鎮守の森が職掌と思う。北海道神宮は、神社山と三方の山に囲む日本人の理想「自然と一体」の形で神社を祀る。
<住友和弘さん>	森林散策は、自律神経やストレスホルモンが改善し、血圧が下がる。(資料で説明)ドイツでは、湯治や森散策で約2百円の保養税を徴収し、森林保全に充てる事例がある。
<石森秀三さん>	6次産業化の新たな観光を見出す中で、道産子が北海道森林を一番理解していない。地域で活躍のよそ者、若者、馬鹿者に法的資格を付与し、地域での活躍強化を進めたい。
<沼田和之さん>	四国銀行はNPO等と連携し、地域通貨券で森林保全を推進。北海道でも森林保安税を。紋別漁協女性部では300名位の市民と、資産資源を守る川と森の保全を行っている。
<斉藤かすみさん>	野幌原始林でのコンサートで、オカリナが鳥が逃げに寄ってきた初めての楽器と言われた。囚人墓地に眠る囚人が丹精込め育てた月形町の杉林で、癒しの演奏ができ感無量だった。

◎森の知恵展(同時開催)

- ◇NPOや各団体のPR展
- ◇森の里恵袋書籍展

18団体が出展し、大勢の方々が賑わった。



◆編集後記◆

当会創立以来の大規模なイベントが大成功で終え、ご尽力された関係各位に深く敬意を表します。少しでも雰囲気伝わればと思いで、本ジャーナルを作成しました。浅い内容となり、恐縮です。

編集担当：岡田隆範(連絡先090-7087-2741)

発行 北海道に森を創る会事務局

札幌市中央区北4条西5丁目(北海道林業会館5階)  
電話：(011)826-6025 FAX：(011)826-6453  
E-mail: moritukuri@nifty.com